

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0791000169		
法人名	株式会社 エコ		
事業所名	グループホームおばまユニット2		
所在地	二本松市下長折字藤540番地		
自己評価作成日	令和4年11月21日	評価結果市町村受理日	令和5年2月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/07/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/07/index.php</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県福祉サービス振興会
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3
訪問調査日	令和5年1月26日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域に密着し利用者様が日々穏やかに安心して頂けるよう、コロナ禍前は、毎月の行事や地域のボランティアの方々を招いて、歌や踊りを1.2ユニット全員が鑑賞し交流をしていました。現在はコロナ禍でもあるので、地域行事などは職員のみ参加し地域との繋がりを大切にしています。他施設、医療機関と連携を取り情報交流を行いながら利用者様、家族様が必要なサービスを選択出来るように取り組んでいます。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員の目の届く所へ掲示し毎日の申し送り時に唱和してホーム全体が「笑顔」になれるように取り組んでいます。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルスの感染拡大防止策を講じながら、事業所が孤立しないよう地域の人々と一緒に花壇の花植えに参加したり、地域へ事業所をアピールしています。また、地域の広報なども回覧して交流しています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の対面開催は控えています が、文書にてホームの状況をお伝えして、ご家族にも認知症への理解を深めて頂けるよう、入居者様の日々のケアについてお手紙などでお伝えさせて頂いております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	コロナ禍の為、事業所内での運営推進会議開催は控え、各委員に資料を郵送し、意見を返信して頂いています。頂いた意見は運営に反映するようにしています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者や生活支援担当者が利用者様の生活状況を見にホームを訪れ入居者様と面談を行っている。事業所の情報を伝え共有し協力しています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修会で身体拘束の対象となる行為の共通理解を深め、身体的拘束適正化委員会を定期的に行っています。又職員にアンケートを実施して身体拘束を行わないケアに取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者をはじめ職員間でケアの方法に関して話し合い虐待防止に取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している方はいませんが、今後の必要性を考え、研修の機会を設けるようにしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	コロナ禍のため密を避け短時間で説明するようにしていますが、後日疑問点などがなければ電話で確認して家族等には理解と納得を頂けるようにしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	内部研修会で身体拘束の対象となる行為について話し合い共通理解を深めています。また、身体的拘束適正化検討委員会を定期的に開催し、職員にアンケートを実施したり身体拘束しないケアに取り組んでいます。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議や日々の申し送り等にて職員の意見を聞き、行事等なんでもしたいと思う事は反映させています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得制度や希望に応じて個人の生活状況を考えた労働時間など考慮し、やりがいを持って働ける環境の整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新型コロナウイルスの感染防止のため、インターネットを活用した研修体制を取っています。職員の時間に合わせ受講できるため多くの職員が働きながら研修できるようになっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍のため、短時間での交流会に参加しサービスの質の向上に努めています。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者様の不安や要望等に耳を傾け、不安を取り除くよう、本人の気持ちを受け止め、関係性を密に一緒に向き合う事で信頼関係を構築出来るように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談する家族様の立場に立って話しを聴き、入居者様に関する情報を伺い、良好な信頼関係を築き本人、家族様の意向を生活、ケアプランに反映するように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	実態調査時に現状の情報を確認、また担当ケアマネや関係者から情報提供を受け、本人が出来ない事、困っている事、心配に思うことなどを聞き取り、他のサービスも含めた支援に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様が出来ることは、お手伝いして頂き生きがいを持てるようにしています。ホーム内の飾りは入居者様と一緒に作ったり、楽しいと思えるような生活ができるように支援しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	新型コロナウイルスの感染防止の為、家族様は面会できない状況で、ホーム行事等の取り組んでいる写真など送付し、生活の様子等お伝えしています。また家族様と入居者様が電話で話せるよ支援しています。また、生活状況健康状態も電話や手紙で報告しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルスの感染防止策の為、電話の取次ぎや窓越しで会える支援をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の状態に合わせ共用スペースで一緒に過ごせるように座席を配慮しています。また、工作が出来るよう職員が準備して一緒に楽しんだり動画を活用して歌や、体操などを皆で行い支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設へ移動した利用者様、ご家族様に情報提供をして別施設でもお変わりのない生活ができるようにしています。その後の問い合わせにも丁寧に対応するように努めています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居様様の生活歴を理解し、日々接することで不安や意向を把握しています。意思疎通の困難な方は表情や反応を見ながら意向をくみ取るようにしています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	自分らしく暮らして行けるように、ご本人の好み、こだわりをご家族様にお聞きしながら対応しています。また、その時々々の心理状況に合わせた好みを取り入れています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	健康チェックをして、心身の状態を観察し、本人が意思決定ができるようにしています。また、残存機能が維持できるように支援しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様がよりよく生活するためにアセスメントやモニタリングを繰り返しながら、要望や状況の変化に応じて新しい生活課題がないか職員間で検討して介護計画を作成しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に日々の生活をを観察し、ケアプランに沿った記録をしています。また、ADLの変化や気づきによって介護計画の見直しに活かしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	定期的に社内訪問マッサージ、訪問理容のサービス提供をしています。他施設への申し込みをしたいとの意向がある際は、必要書類の記入方法や問い合わせにも対応しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在はコロナ禍で、ボランティアの方々の受け入れができない状況です。訪問理容は地元の方をお願いしています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人様、家族様の希望を伺い医療機関の受診をしています。受診結果は共有出来るように家族様と連携を密にしています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	運営法人所属の看護師が定期的に来所し、アドバイス頂いています。電話での問い合わせにも対応してくれるため、安心して生活できます。緊急時にも地元消防署、病院と連携して適切な診療を受けられるようにしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は情報提供をしています。入院中は相談員と連携し、退院に向け状況交換をしています。退院前には実態調査し退院後も安心してホームに戻れるようにしています。また、主治医や相談員、家族様と情報交換し協働しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に本人・ご家族に重度化や終末期について書面を用い意向を確認しています。その時々状態に応じて主治医を交え、ご家族が納得し不安が解消できるよう話し合いをしています。本人に最善の対応ができるように関係者、職員全員で取り組んでいます。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会で急変時の対応連絡手順については訓練をし緊急事態に備えています。また、救急搬送時の対応も実践力を身につけています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を定期的に行っています。水害時は垂直避難をして助けを待つようにマニュアルを整備。消防担当職員からの指導で避難誘導、水消火器で訓練もしています。他に非常食等の備品を準備して災害時対応できるようにしています。また、ハザードマップを確認して避難経路も把握しています。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入職時に職員個人にプライバシーについて講習しています。また、本社からリモート研修をホームで行っています。研修報告書の作成、スタッフ会議での伝達講習をしています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様とコミュニケーションを図り、その人の希望や願いに気づき自己決定しやすい環境作りを心掛けています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせて過ごして頂いています。職員が入居者様に合わせながら、ストレスなく生活できるように支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時に整容するように声掛けしています。髭剃りや爪切りは声掛けし必要に応じて介助しています。巻き爪や爪が厚くなっている方は、看護師が対応して清潔保持できるようにしています。また、定期的に訪問美容でおしゃれできるように支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	それぞれの食事形態に留意し、提供しています。むせりのある入居者様には、トロミを使用して嚥下しやすいように個別に対応しています。簡単な野菜の下処理を職員と一緒にしたり、毎食前に口腔体操も実施しています。月1回は希望メニューを取り入れ楽しめるよう支援しています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	禁食のある方には別の物を提供します。栄養バランスを考え一人ひとりの食べる量を調整、水分を摂取して頂き脱水に注意し声掛けしています。食事量や水分摂取量は個人ケースに記録しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声掛け、介助しています。定期的に歯科衛生士が口腔内観察や口腔ケアを実施し助言を受けています。口腔ケアの大切さについて職員は研修を受け、清潔保持に努めています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレで排泄出来る様に個々の排泄パターンを把握しています。オムツ使用の方も時間での確認をして交換を行い、清潔に過ごせるよう努め、夜間帯も個別に声掛けしてトイレでの排泄を促しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	本人の申し出や、トイレの際に排便の有無を確認をします。排便チェック表を活用してできるだけ自然排便できるよう水分摂取、乳製品等を取り入れています。また、主治医の指示により下剤を使用して便秘解消に取り組んでいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者様の希望に沿い、体調に留意し週に2回以上入浴できるように支援しています。また、体調不良時は清拭、更衣の支援をしています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床、入床の時間は本人の意思を尊重しています。温室、居室の明るさも本人様の希望に対応。夜間起床した際は、傾聴し安心入眠できるように支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医、薬剤師と連携を取り、個々の薬を理解し、服薬方法、回数等を把握しています。服薬時は、2名で確認し確実に服薬したか確認します。薬の変更等があった時は、職員全員が分かるように薬箱に変更内容を記載しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様が持っている能力を発揮できるよう、テーブル拭き、新聞たたみ、洗濯たたみなどができることをして頂いています。入居者様、職員との談笑の中で思い出を共有し、その都度、聞き取りをし楽しみを提供できるようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年はず定した外出が中止となってしまいました。外出は出来なかったが、七夕で流しそうめんを行ったり納涼祭には焼肉・焼きそばを食べたりスイカ割りをして外に出る機会を作っています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人希望にて、お金を持っていないと不穩になる方は、財布を持っていただきます。ホームで金銭をお預かりしており、本人から申し出があれば、職員が買い物をして渡し、満足できるように支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の取次ぎをして会話出来るようにしています。贈り物があった際には、お礼の電話が出来る様に支援しています。また、手紙があった際には本人に渡し必要に応じて代読しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様の動線を考え、家具の配置をしています。定期的に換気をし、室温、湿度確認して快適に過ごせるようにしています。また、その時々々の体感に応じて快適に過ごせるようにしています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様が、好きな時に居室で過ごせるように、居室環境を整備しています。共用部では気の合う方と過ごせるように、テーブル、ソファを配置しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている	ご家族の写真やアルバム、ホームでの写真を飾り、生活感を感じられるようにしています。室内にテレビを置き、自分の好きな時間で好みの番組が見れるよう配慮しています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室番号や、居室扉に見える位置に名前を貼り自分の居室がわかるようにしています。状態に応じ手すりを設置し室内を安全に移動できるように環境整備しています。		